

【横浜遊技場組合】

防災拠点として非常用にミネラルウォーターを備蓄
＜防災の日には組合員ホールで防災訓練を実施＞

【概要】 東日本大震災の際、多くの市民が駅で長い時間交通の復旧を待ちました。また、その復旧の目途がたたず諦め、街道を徒歩で帰宅されていました。その教訓から、横浜遊技場組合（飯島隆史組合長 傘下 109 ホール（平成 30 年 8 月現在））では、ホールの多くが国道や県道などの幹線道路沿いや駅周辺に位置していることから、災害時にホールを「防災拠点」として、市民にトイレの貸出し、また休憩所としてホールの開放を行い、併せて備蓄しているミネラルウォーターを命の水として提供できるよう備えています。



横浜遊技場組合の各ホールでは、防災グッズコーナーを設けることで、市民に備蓄の大切さを啓蒙しています。



備蓄しているミネラルウォーター「はまっ子どもし TheWater」は横浜市の水源の一部である道志川の清流水で、横浜市では収益の一部を道志水源林の環境保全に役立てています。

防災の日の 9 月 1 日には、傘下ホールで防災訓練や、備蓄しているミネラルウォーター及び非常食の試食の配布などを行い、ホールスタッフやお客様の防災意識を高めました。
＜写真：東横フェスタグループ＞



防災訓練の様。ホールスタッフにも防災拠点としての意識を高めています。



スタッフはお客様に災害に備えることの大切さを訴えながら「はまっ子どもし TheWater」を配布しました。